

# 「令和5年からの運動部活動の地域移行に伴う実態調査」の調査結果

山梨県小中学校体育連盟 調査統計部

## 1 はじめに

昨年度の調査統計の「部活動の地域移行に対しての教員の意識調査結果より、兼職兼業許可申請を出す教員の希望数が低かったことやこの制度についての周知がなされていないことの課題が浮き彫りとなった。また、休日部活動の地域移行に向けた実践研究事業（櫛形中・八田中）からは、運動嫌いな生徒でも地域スポーツ活動に参加できるよう、競技志向でない生徒の意向を十分尊重した活動となる工夫が求められることや、保護者の経費負担や活動内容の保護者への説明責任など多くの課題が浮き彫りとなった。

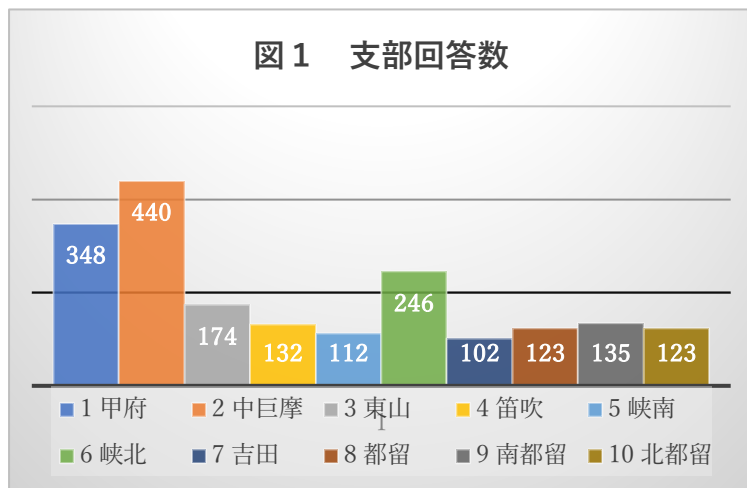
これらのことより、運動部活動の地域移行に際し、全ての希望する生徒が対象となるような運動部活動にするためには、まずは生徒のニーズを捉えるべく今回の調査を実施した。

## 2 調査目的及び内容

山梨県小中学校体育連盟では、昨年度の「教員の意識調査」を受けて、令和5年度からの部活動移行の対象者となる生徒に対して、部活動の地域移行に対しての率直な意見を聞き、生徒のニーズや思いを明らかにし、今後の段階的实施に向けての一資料を得ることを目的とした。

調査内容は、山梨県内10支部、81校の中学2年生の1クラスを対象として「部活動が地域に移行しようとしているが情報として知っているか」や「部活動が地域に移行した時に、学校外での活動に参加しますか」などである。本年度は、生徒のニーズを明らかにする中で今後の部活動の地域移行に向けての方向性を探る一端として調査を行った。

## 3 調査対象



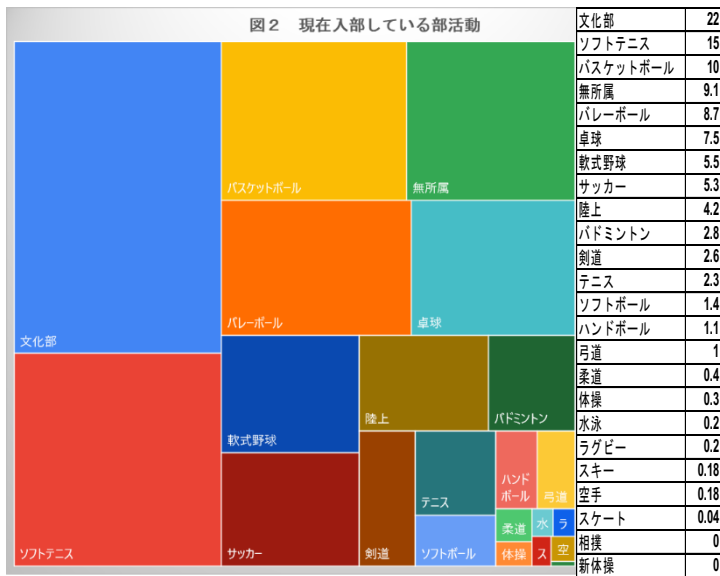
山梨県内10支部81校、中学2年生1クラスを対象に、7月～8月にかけてGoogleformsアンケート調査を実施した。対象となる生徒は、左の通りである。

全合計 1935人

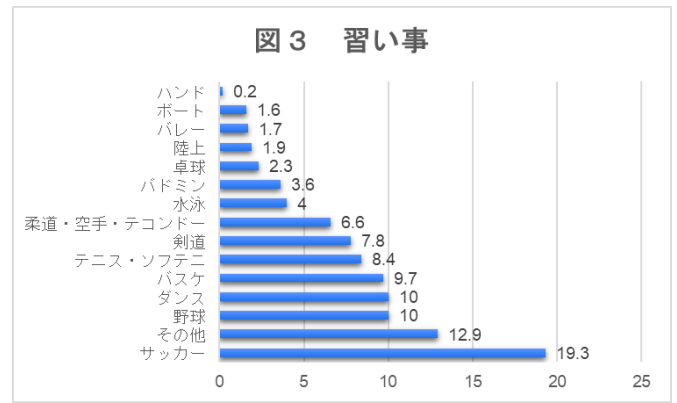
## 4 調査結果

### (1) 現在所属している部活動は何かについて

図2は、所属している部活動は何かについて、ツリーマップで視覚的に示したものである。全体の内訳は、文化部が22%で最も高い割合を示し、その次にソフトテニスの15%、バスケットボールの10%の順で、高い割合となった。また、クラブチームや運動関係の習いごとをしている生徒の割合は全体の24%で、サッカーが19.3%で一番多かった。(図3参照)



(%)



(%)

(2) 現在所属している部活動に入部した理由について

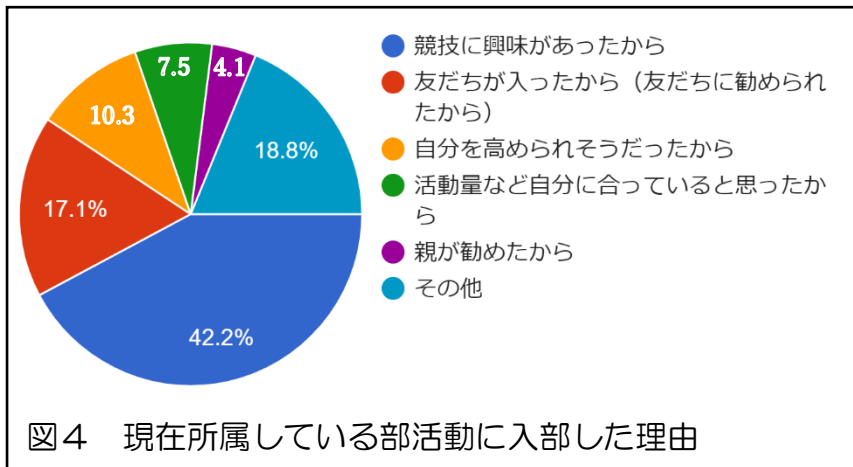


図4は、現在所属している部活動に入部した理由についての内訳である。一番多かった回答は、「競技に興味があったから」が42.2%、その次に多かった理由が「その他」の18.8%で、3番目に多かった理由は「友達が入ったから (誘われたから)」が17.1%だった。その他の内訳で一番多かったのが「小学校からやっていたから」その次に多かったのが「兄弟がやっていたから」だった。

(3) 学校の部活動が地域に移行しようとしていることを知っているかについて

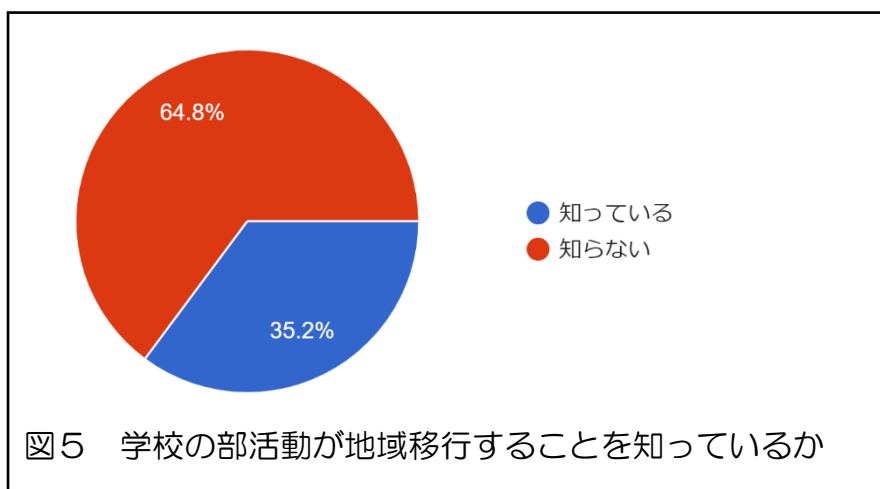


図5は、学校の部活動が地域に移行しようとしていることを知っているかについてのグラフである。64.8%の生徒が「知らない」と答えた。昨年の調査より、教員も知らない人が多かったことに加え、生徒たちにもどのように伝えていくか、各市町村の方向性も出ていない所も多く、各学校において対応が難しい。

(4) 今後、部活動が地域に移行したときに、参加するかについて

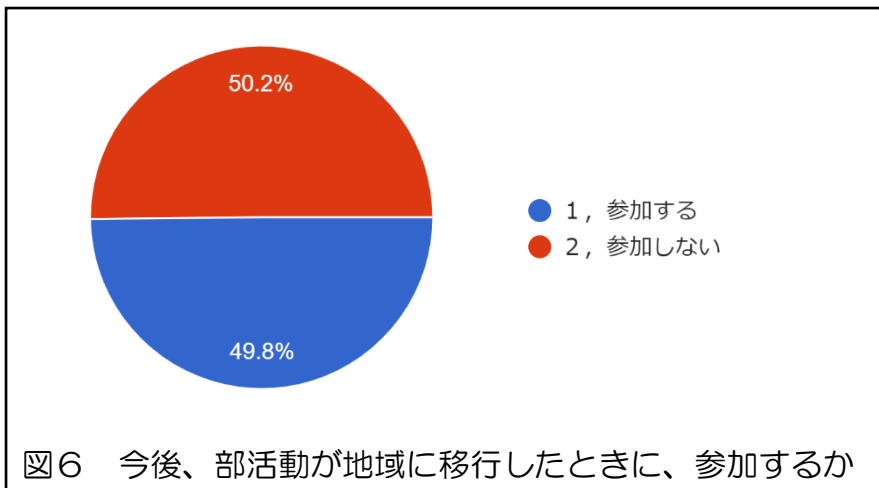


図6は、今後、部活動が地域に移行したときに、参加するかについてのグラフである。参加すると答えた生徒は、49.8%。参加しないと答えた生徒が50.2%だった。このことにより、部活動が地域に移行した場合、参加する生徒としない生徒の割合は、約半分に意見が分かれた。

(5) 「参加する」と答えた生徒の理由について

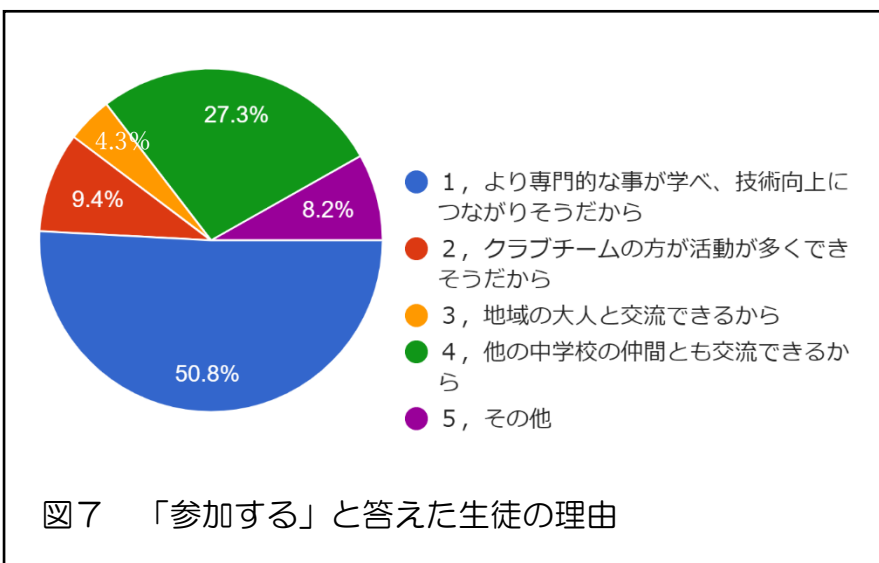


図7は、「参加する」と答えた生徒の理由についてのグラフである。「参加する」と答えた生徒の中で、50.8%の生徒は、「より専門的な事が学べ、技術向上につながりそうだから」と地域部活動への意欲を示している。その次に多かった理由としては、27.3%の生徒が「他の中学校の仲間とも交流できるから」であり、交友関係を広げたい意思があることがくみ取れた。また、その他の意見には、「現在している運動を続けたい。」「やめたくない。」等の意見が多かった。

(6) 「参加しない」と答えた生徒の理由について

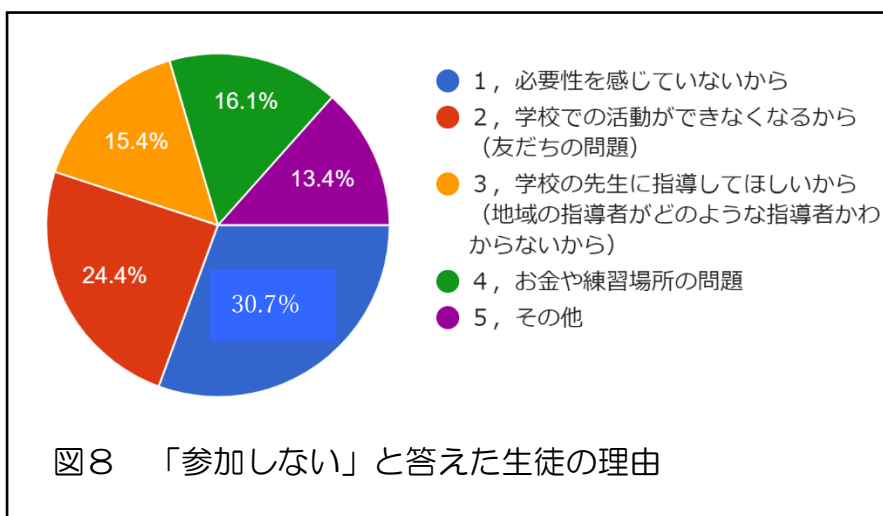


図8は、「参加しない」と答えた生徒の理由についてのグラフである。「参加しない」と答えた生徒の中で、30.7%の生徒が「必要性を感じていない」との理由で一番多かった。その次が、24.4%の「学校での活動ができなくなる(友達の問題)」を挙げていて、友達関係のことを心配している様子も伺える。その次が、16.1%の生徒が「お金や練習場所の問題」、15.4%の生徒が「学校の先生に指導して

ほしいから(地域指導者がどのような人かわからない)」、13.4%の生徒は「その他」となった。「その他」の内訳は、「今いる仲間と先生とともに活動したいから」や「他の学校の人と関わるのが怖いから」「他の所にわざわざ行くのが面倒」などの意見が多かった。

(7) 地域クラブチームに参加するとしたら、月の月謝はいくらまでなら参加するかについて

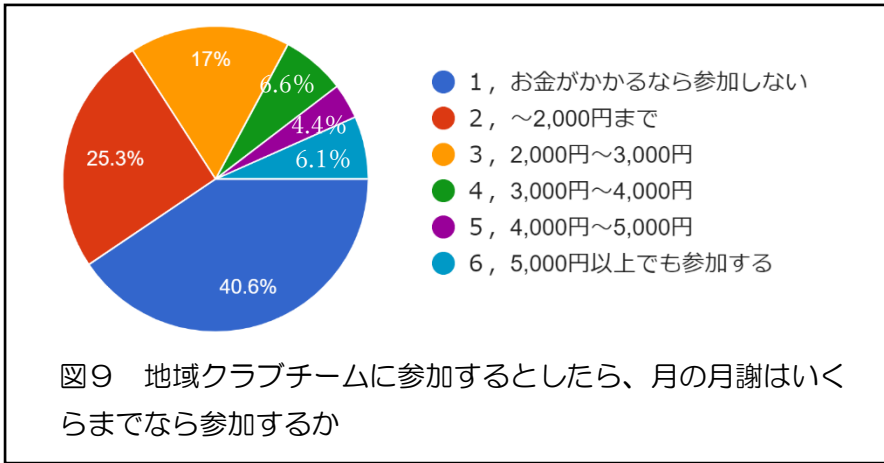


図9は、地域クラブチームに参加するとしたら、月の月謝はいくらまでなら参加するかについてのグラフである。一番多かったのは、40.6%で「お金がかかるなら参加しない」その次に多かったのが、25.3%の「~2000円まで」だった。約半分以上の生徒は、お金が多くかかるなら「参加しない」意思があることがわかる。

(8) 地域のクラブチームに参加するなら、平日週に何回活動したいかについて

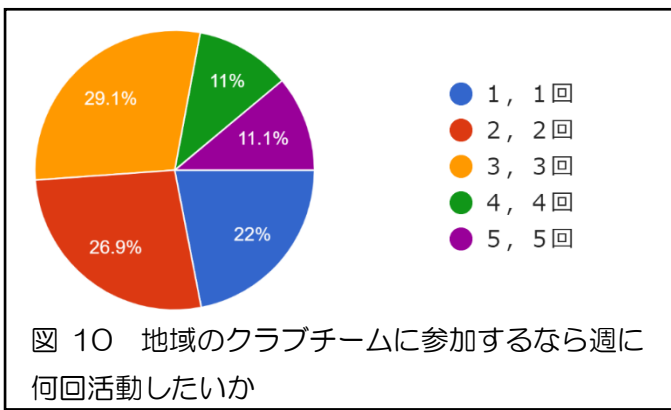


図10は、地域のクラブチームに参加するなら週に何回活動したいかについてのグラフである。3回が一番多くて、29.1%。その次が2回で26.9%。そして、1回の22%と続いた。全体的に平日は2, 3回と考えている生徒が多いことがわかる。

(9) 地域のクラブチームに参加するなら、土日に何回活動したいかについて

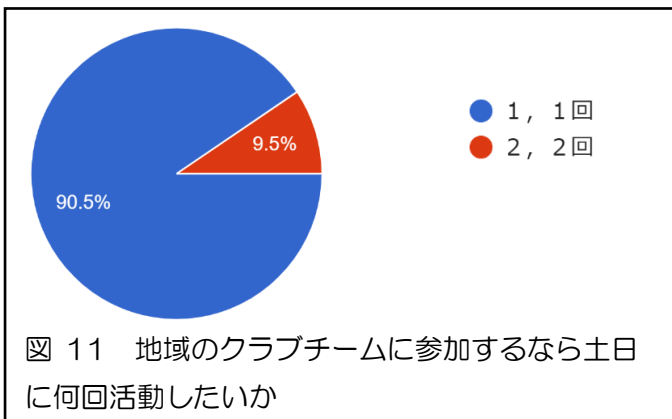


図11は、地域のクラブチームに参加するなら土日に何回活動したいかについてのグラフである。90.5%の生徒が1回と答えていて、逆に土日のどちらか1日は休みたいと考えているともとれる。

(10) 地域のクラブチームに参加するなら、平日に何時間活動したいかについて

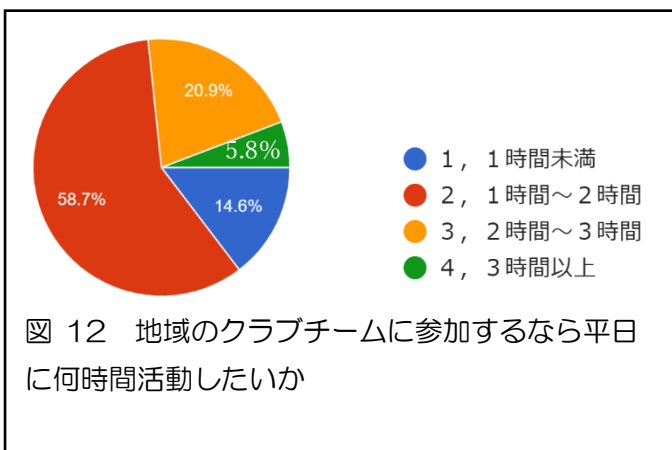


図12は、地域のクラブチームに参加するなら、平日に何時間活動したいかについてのグラフである。58.7%の生徒が1~2時間と答えている。移動や今のうちに自分の学校でできないことを考えると、妥当な時間だといえる。

(11) 地域のクラブチームに参加するなら、土日に何時間活動したいかについて

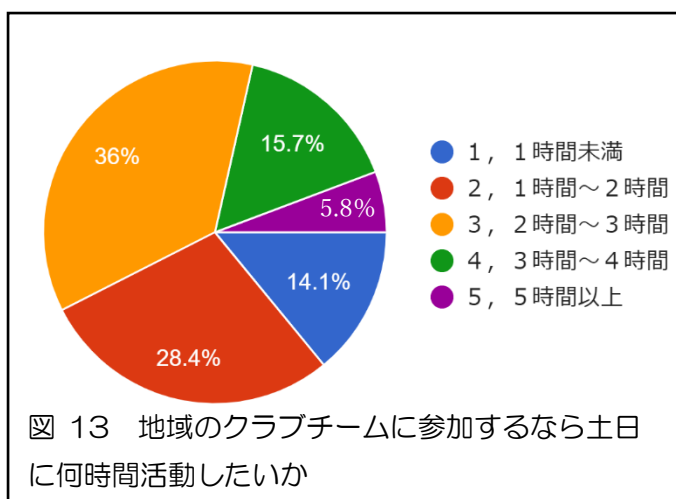


図 13 は、地域のクラブチームに参加するなら、土日に何時間活動したいかについてのグラフである。一番多かったのが、36%の生徒で、「2～3時間」、次が28.4%の生徒で「1～2時間」だった。1日練習のような5時間以上の多くの練習を望んでいる生徒は、5.8%の生徒のみだった。

(12) 地域のクラブチームに参加するなら、場所はどのくらいの距離なら参加するかについて

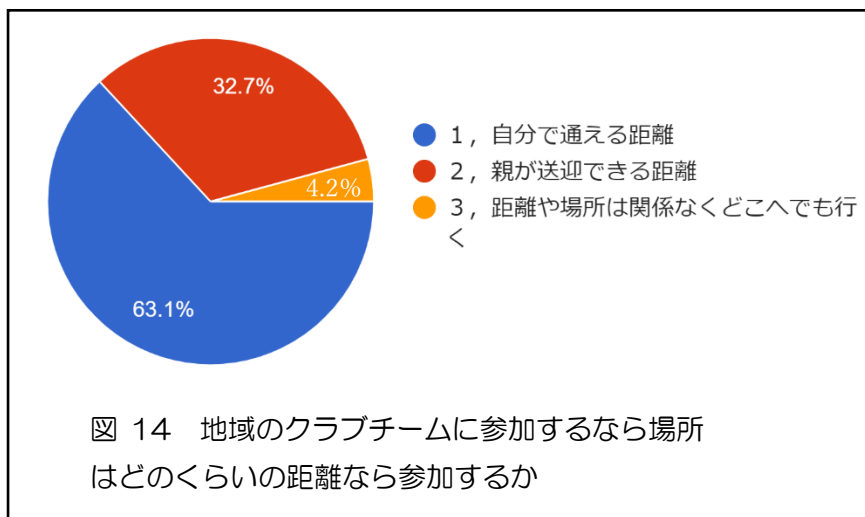


図 14 は、地域のクラブチームに参加するなら、場所はどのくらいの距離なら参加するかについてのグラフである。63.1%の生徒が「自分で通える距離」と回答しており、距離的なものも重要な問題になってくると思われる。

(13) 部活動が地域移行して期待できることは何かについて

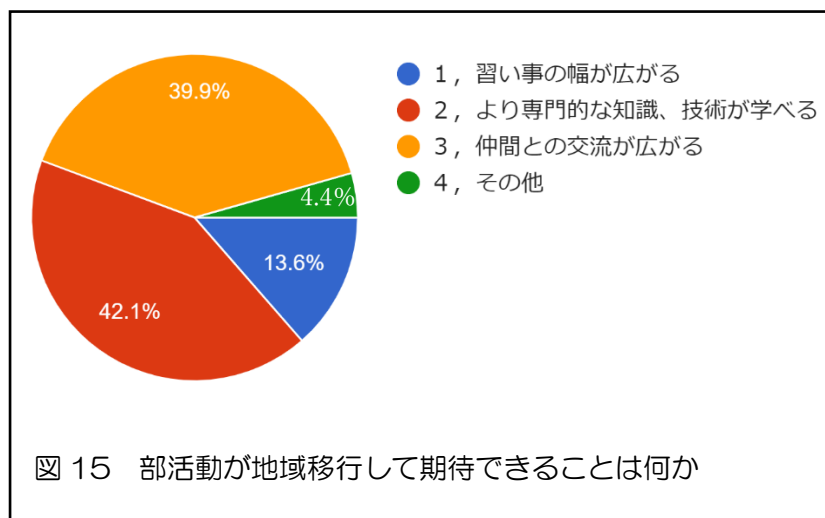


図 15 は、部活動が地域移行した際、期待できることは何かについてのグラフである。1番多かった理由は、42.1%の生徒で「より専門的な知識、技術が学べる」で、2番目に多かったのが、39.9%の生徒で「仲間との交流が広がる」、その次が13.6%の生徒で「習い事の幅が広がる」だった。その他の理由として多かったのは、先生たちの多忙化が改善されるや自分たちの選択の幅が広がるなどの意見があった一方、約半分の生徒は、「期待できることは何もない」との意見だった。



(14) 部活動が地域移行して心配なことは何かについて

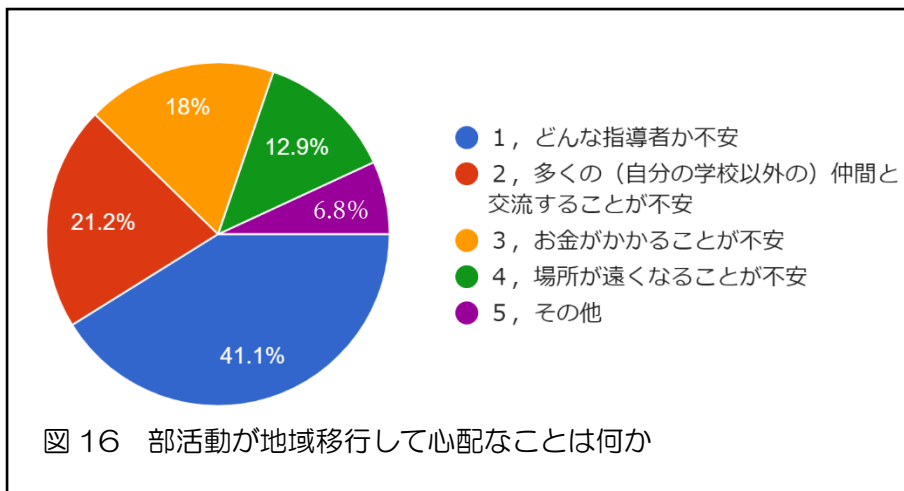


図 16 は、部活動が地域移行して心配なことは何かについてのグラフである。1 番多かった理由は、41.1%の生徒で「どんな指導者が不安」を心配な理由に挙げている。2 番目が、21.2%で「多くの(自分の学校以外の)仲間と交流することが不安」3 番目が18%で、「お金がかかること」、4 番目が12.9%で、「場所が遠くなること」の順番にあげていた。その他の理由の多くは、今現在の部活の仲間や顧問との関係が希薄になったりすることへの不安や上記の1～4すべての理由に不安を抱いているなどの意見が多かった。

の部活の仲間や顧問との関係が希薄になったりすることへの不安や上記の1～4すべての理由に不安を抱いているなどの意見が多かった。

(15) これまでに挑戦したことのないスポーツに挑戦するとしたら、何の種目に挑戦するかについて

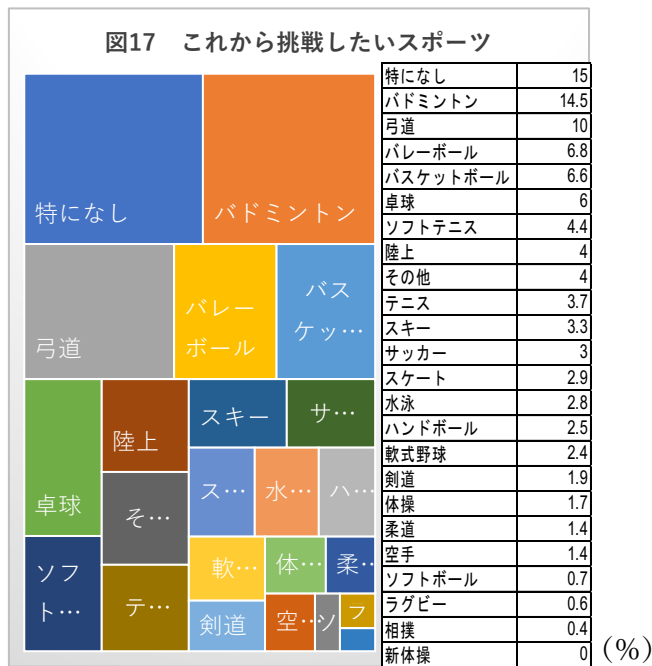


図 17 は、これまでに挑戦したことのないスポーツに挑戦するとしたら、何の種目に挑戦するかについてのグラフである。1 番高い数値は、15%の「特になし」で、運動に興味の無い生徒が多いことが伺える。2 番目に多かったのは、14.5%のバドミントンである。その次に多かったのが、弓道の10%、バレーボールの6.8%であった。

5 今後の具体的な取組方向

今回の調査結果を受けて、生徒のニーズにできるだけ応えられる部活動の地域移行が理想的であるが、約50%の生徒が部活動が地域に移行した場合は、「参加しない」と答えていることより、生徒のニーズに沿った地域移行自体も難しいが、合わなかった場合には更なる運動離れに加速がつくものと思われる。今までの部活動の良さを生徒は感じており、部活動の変容だけでなく、このことにより学校の変容まで心配している生徒までいることを考えると、各地域や生徒の状況に合った地域移行を考えていくことが急務である。

山梨県小中学校体育連盟では、来年度からの地域スポーツ団体参入に際し、各種規約や規定の見直し、組織の見直し(専門部内)、各支部、専門部の情報収集、大会の在り方、会費の在り方、保険の在り方の検討、県のガイドラインに基づいた地域スポーツ活動の在り方等検討していき、更に価値ある団体・組織としての改革をすべく、生徒達の意向に寄り添った地域移行となるよう慎重であり、丁寧かつ速やかな改革を進めていきたい。

〔文責：調査統計部委員長 杉原 彩子 (甲府市立上条中学校)〕